

産官学連携事例紹介 特許データベースを活用した産学官連携マッチング

○米田 則篤 (和歌山大学 産学連携イノベーションセンター URA 室)

1. はじめに

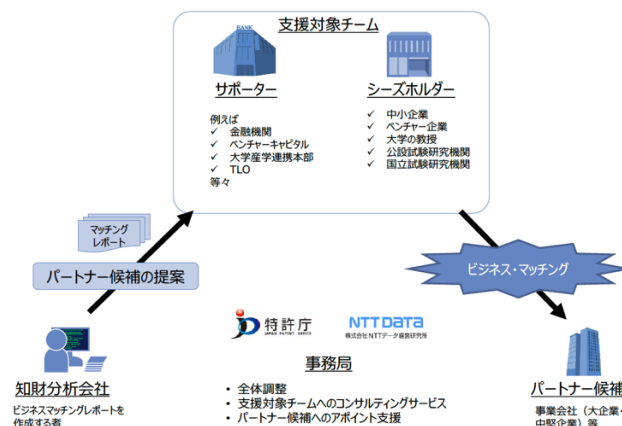
和歌山大学 産学連携イノベーションセンターでは研究成果の特許化に関して弁理士資格を持った専門の知財担当職員を配置し、株式会社TLO京都と連携しながら研究者の特許出願及び特許利用に関する様々な業務に対応している。

知財の有効利用促進のため、平成31年4月に採択された、INPIT「産学連携知的財産アドバイザー派遣事業(プロジェクト支援 A 型)」で派遣されている前田客員教授と共に知財の事業化に向けたプロジェクトを開始、また令和元年11月に採択された、特許庁「中小企業等知財分析レポートを用いたマッチング調査事業」の取り組みなどを行ってきた。

今回は「中小企業等知財分析レポートを用いたマッチング調査事業」の事例について紹介する。

2. 概要

「中小企業等知財分析レポートを用いたマッチング調査事業」は、特許情報をもとに他社との共同研究やライセンスを目的としたアライアンスパートナーをショートリストにして、事業提携先を検討するためのマッチングレポートを作成し、本レポートを活用することにより、関連する技術分野やマーケットにおけるプレイヤーが明らかになるだけでなく、自社技術との差異や特徴を分析し、マッチング確度の高い企業を抽出することを目的としている事業である。



※図1：令和元年度 特許庁 事業「中小企業等知財分析レポートを用いたマッチング調査事業」募集要領(サポーター シーズホルダー)より抜粋

今回は応募にあたり産学連携知的財産アドバイザーの前田客員教授、知財担当専門員の小門氏と共に、本学保有の知財のうち、在学教員/件数/利用状況などを考慮して和歌山大学教育学部山口教授の「糖鎖の簡易合成法と合成糖鎖の応用利用技術」を選考して応募した。

特許第 6095571 号 新規シアロ糖鎖の製造方法

特許第 6324660 号 新規(2→3)結合型シアロ糖鎖の製造方法

特許第 6556448 号 反応性基導入α-ガラクトースの製造方法

特許第 6629021 号 免疫グロブリンA分泌促進剤

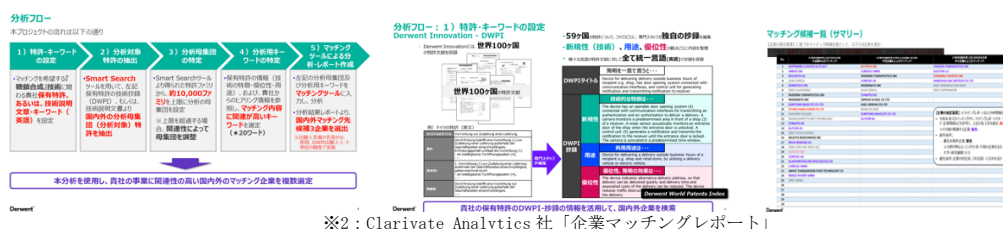
特願 2017-139145 抗ウイルス剤

特願 2019-149688 腸内細菌フローラにおけるクロストリジウムクラスター抑制用組成物

採択後は以下の流れでマッチングを進めた。

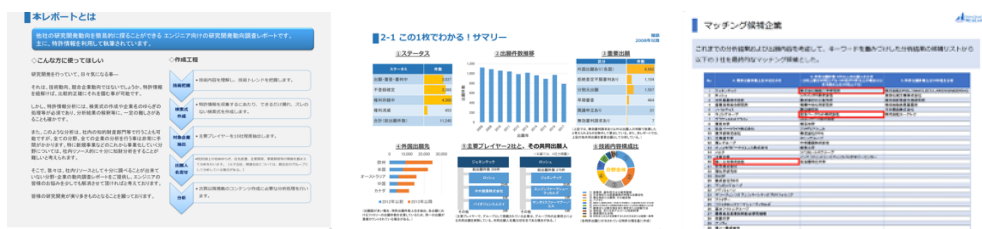
- ① 初回面談では、事務局よりプログラム概要説明、知財分析会社よりレポート作成手順の説明、大学より当該特許技術の説明及びマッチング希望業種、キーワードなどの絞込みについてのすり合せを行った。

- ② 知財分析会社(今回は「Clarivate Analytics 社」「イノベーションリサーチ社」)の2社がレポートを作成、関連特許情報及び分析レポート並びにマッチング候補企業リストについて説明を受けた。



※2: Clarivate Analytics 社「企業マッチングレポート」

Clarivate Analytics 社は、1) 特許・キーワードの設定、2) 分析対象特許の抽出、3) 分析母集団の特定、4) 分析用キーワードの特定、5) マッチングツールによる分析・レポート作成を実施した。



※2: イノベーションリサーチ株式会社「マッチングレポート」

イノベーションリサーチ社は、1) 公開特許情報を元にマッチングを図る技術分野の特定、2) 特許検索式の作成、3) 技術動向分析/企業マッチングレポート作成、4) 課題キーワードのテキストマイニング処理などによる「マッチング分析用キーワード作成、5) 母集団から出願件数上位1千社を抽出、6) 課題キーワードのマッチング度数の算出、7) マッチング候補の選定を実施した。

- ③ 大学にてマッチング候補企業の選定(5~6社)、企業向け概要提案書の作成
- ④ 事務局にてマッチング候補企業へのアプローチ、選定、面談調整
- ⑤ 大学にてマッチング先企業向け提案書の作成
- ⑥ 企業面談(今回は遠隔地の為 web 面談にて実施)

3. 小括

本稿では、特許情報を元にした連携マッチングの一例をあげたが、分析手法詳細については、分析会社各社の個別ノウハウなどがありここでは割愛するが、特許情報を元にマッチングすると競合も含むかなり関連性の高い企業の絞込みや、業界での動向が判った。

ここで抽出した「主要キーワード」に関する企業動向などは、時間軸に沿って見てみると業界の注目トレンドも見て取れることが判った。

本件ではマッチングされた大手製薬メーカーとは共同研究まで進めなかったが、製薬企業へアプローチする上での課題や企業サイドの要望が判り大変参考になった。また研究者の今後の研究戦略を考える上での基礎資料としても活用が考えられる。

大学 URA など関係者が気軽に使えるソリューションとしてサービス化予定もあるそうで別の特許で本年度中に実証してみる予定である。

【謝辞】

本研究は、特許庁「中小企業等知財分析レポートを用いたマッチング調査事業」にて行われた。本調査にご協力いただいた特許庁高田氏、株式会社 NTT データ経営研究所江木氏、Clarivate Analytics (Japan) Co.,Ltd. 中島氏、鷲巢氏、長谷川氏、イノベーションリサーチ株式会社小磯氏、和歌山大学山口教授、小門氏、前田客員教授に深く感謝いたします。

【参考文献】

- 1) 引用元: 「令和元年度 特許庁事業「中小企業等知財分析レポートを用いたマッチング調査事業」募集要領(サポーター シーズホルダー)」, NTT データ経営研究所, 2019.
- 2) 引用元: 「企業マッチングレポート」, Clarivate Analytics 社, 2020.
- 3) 引用元: 「マッチングレポート」, イノベーションリサーチ株式会社, 2020.